

保育所（園）・幼稚園での集団フッ化物洗口の推進と今後の課題

1 京都市集団フッ化物洗口支援事業モデル実施

保育所（園）・幼稚園などの施設が主な生活の場である、4歳・5歳児は、むし歯が急激に増え、後続の永久歯にも悪影響を与えやすいため、施設における4歳・5歳児クラスの幼児を対象として、関係機関・団体の協力のもと、京都市集団フッ化物洗口支援事業を平成21年10月から開始。

子どもの生活の場	出生 保育所（園） 家庭 幼稚園					小学校							
指針（ライフステージ）	乳幼児期			保育・幼稚園期		少年期（学齢期）							
年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
京都市の施策	フッ化物 歯面塗布					集団フッ化物洗口（週1回法） 「フッ化物洗口」推進事業として 全市立小学校で実施							

4歳、5歳児期はむし歯が急激に増える時期であるが、積極的なむし歯予防策がない“切れ目”であった。

《支援事業の内容》

対象	4歳・5歳児クラスの幼児	
洗口回数（毎週）	週5回	
支援物品	蛇口付ポリタンク	洗口液の作成に使用
	ディスペンサー付ボトル	洗口液の分配に使用
	洗口誘導音楽CD	洗口の実施に使用
その他支援内容	必要時の技術上・学術上の支援	

実績（平成22年12月現在）：市内6施設（5保育所（園）、1幼稚園）において303名の幼児が集団フッ化物洗口に取り組んでいる

区	団体名
北	衣笠幼稚園
	衣笠保育園
左京	セヴァこども学園
東山	善立寺保育園
山科	勸修保育園
	永興小金塚保育園

2 京都市集団フッ化物洗口支援事業説明会の開催

フッ化物洗口実施施設を更に拡大するため、説明会を（社）京都府歯科医師会の協力のもと開催し洗口実施施設の体験談等を紹介し、集団フッ化物洗口が身近できる効果的なむし歯予防の方法であることを伝えた。

日時	平成22年 7月29日（木）
場所	京都市子ども総合支援施設こどもみらい館
内容	・善立寺保育園園歯科医師による説明と報告 ・衣笠幼稚園教諭による体験談と園児の行動変容についての報告 ・洗口液の作成と集団フッ化物洗口の体験
参加施設数	・幼稚園： 6園（実施希望：0園，実施検討： 3園） ・保育園： 25園（実施希望：9園，実施検討： 11園）

<説明会開催以降の状況>

現在、保育園2園において、集団フッ化物洗口導入について準備中。

3 今後の課題及び方向性

モデル事業を実施する中で、次のような課題が浮かびあがった。

[具体的な課題]

- 集団フッ化物洗口の効果について、さらに周知の必要性があり、説明会参加園等に対し個別に説明していくとともに、今後も説明会等、周知の機会を設けていく。
- 集団フッ化物洗口の導入に当たっては、園歯科医師の協力が不可欠であるため、引き続き、歯科医師会への協力要請を行っていく。
- 保育所（園）・幼稚園がフッ化物洗口を日課に組み入れるための時間設定については、実施済みの施設の実施方法等などを紹介するとともに個別に説明を実施していく。
- 製剤の保管に係る管理体制への不安があったことから、マニュアルの見直しにより、施設の洗口責任者を決めてもらうこととした。